

明治八年
大改
錦山
新聞
第七号

武藏の国高麗郡大河原村
大工和吉の女房の諸事
邪見多き氣性よして
隣所の人々をよぼせ。アウヤ
鬼婆々と評判と。鳥けりのにも

ねらりし。未で賣らんたくにて。他人の子貴へ食物も
ひづめて責る氣強さま。居付くものさかい中。漸く明て
十三子ある小娘の兩親も。家もあけ終る去ぬ所の。泣き
つ辛抱も。空腹いこのたへめて。買物も行と其錢と。三夏
どけ買食も。子供心の不兼用と。女房を殺れとさしとせ。
買物先で問合ハ全く二百のぬぬ。怒たてて散々よ。
お擲する其上。火箸を焼て顔あて。裾をまく

尻あて。聲と出せば猶責る。娘へ命も危ふりぞ忽ち
あふは警言視所へ。和吉夫婦に引くまゝとせ



禁
石和板

